

Dr. 和の町医者日記



「がんの基礎知識」シリーズ ⑬



腹部エコー検査 医師や検査技師が超音波が出る「プローベ」を

体表にあて、体内を観察する非侵襲的検査法。体表にゼリーを塗って行う。検査時間は、おおむね10分〜20分。原則絶食で行うが、食後でも可能。保険点数は530点（1割負担なら530円）。

前々回、膵臓がんの早期発見に、腹部エコーが有用という話を書きましたが、「なぜ、CTやMRIを最初からしないのか」という質問をいただきました。

CT検査は常に放射線被曝という問題があります。MRIは検査時間が長く、費用や設備の点でも検診に使うことは難しい現状です。一方、腹部エコーは簡便で無害、比較的安価で、とても有用な検査だと思っています。今回は、腹部エコーだけで、無症状の人にどれくらい、がんが発見できるかを伝えたいです。腹部エコー検査で最も発見しやすいがんは、肝臓がんです。実は、阪神間はB型、C型肝炎

が多く、全国的にみても「肝臓がん多発地帯」。B型、C型慢性肝炎の方は、定期的に腹部エコーで肝臓を見ておく必要があります。

現在、B型肝炎もC型肝炎も、とてもいいお薬が健康保険の適用になりました。かかりつけ医を通じて、肝炎拠点病院でアドバイスを受ける必要があります。アルコール慢性肝炎やウイルス性肝炎の方は、肝臓がんの発生を念頭においた腹部エコー検査を忘れないでください。

次に見つけやすいのは、既に書いた膵臓がんですが、それに加えて膵臓近くの臓器である、胆嚢がんや胆管がんも早期発見できます。この3つの臓器をまとめて、「肝胆膵」と呼びます。消化器の中で肝胆膵は、腹部エコーが有用な臓器です。

一方、胃がんや大腸がんには、やはり内視鏡検査しかありません。気が進まない検査かもしれませんが、やるべき時にやってください。腹部エコーで、大きな大腸がんや胃がんが発見される場合がまれにあります。蛇足ですが、急性虫垂炎（盲腸）や大腸憩室炎、感染性胃腸炎など腸の炎症の病気も腹部エコーで分かることがあります。

さらに、腹部エコーは、腎臓がんや尿管がん、ぼうこうがんなど泌尿器科系のがんの早期発見にも有効です。尿がたまって

腹部エコーでみつかるがん

簡便で無害

いると、ぼうこう粘膜は驚くほどきれいに見えます。

男性の場合、前立腺がんが発見される契機になることもあり、女性の場合は、卵巣がんや子宮がんが偶然見つかることも。どちらも、がんが結構な大きさになっても、あまり自覚症状がないことがあり、腹部エコーで偶然発見されるケースが時々あります。

もちろん、がん病変が疑われたら、CTやMRIなどの検査を行います。おなかの中には、これらががん以外にも、さまざまながんができます。おなかの中のリンパ節が腫れる悪性リンパ腫や後腹膜腫瘍などが見つかることもあります。

腹部エコーに対し、心臓エコーがあります。「プローベ」という超音波が出る先端の形状が違っただけで、基本原理は同じです。心臓エコーは主に、心臓弁膜症などを検査するものです。が、ごくまれに心臓にできる腫瘍が発見されることもあります。また体表にできるがんである乳がんにも、マンモグラフィに劣らぬ威力を発揮しています。

こうして考えると、腹部エコーはさまざまながんを発見に有用な検査です。機会があれば、ぜひ何度でも受けてください。簡便で無害なので、決して損はなく、とても優れた検査法だと思います。

H27. 11. 24

長尾和宏（ながお・かずひろ） 東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る、総合診療を目指す。医学博士。近著「平穏死・10の条件」「胃ろうという選択、しない選択」はいずれもベストセラー。関西国際大学、東京医科大学客員教授。57歳。

